

私たちの窓は、いつもみなさまに開かれています

2012年7月1日発行
NO.385



特集

「食中毒を防ぐ」 P-3

- お役立ち情報
エコー検査 Q&A P-6
- 栄養レシピ
免疫力アップ! にんじんジュース P-8
- 外来紹介「消化器外科」 P-9

50th Anniversary
聖隷浜松病院



■ 今月の表紙

七夕の飾り付け

病院理念

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院



一步踏み込んだ 配慮のできる看護を大切に

看護部/熊谷 富子

医療、医療機器の進歩及び電子カルテの導入により、看護業務は大きく変わりましたが、患者さんの心に寄り添う看護の本質は変わっていません。痛みや苦痛を訴えられる患者さんに、今は医療の専門チームや地域の皆さんと連携して、患者さんの意思を尊重した関わりに務めています。24時間体制で患者さんとの関わりを持つことのできる看護師だからこそ、「今、患者さんは何を望んでいるのか」を常に考えられる、また、一步踏み込んだ配慮のできる看護の基本姿勢を大切にして、今後も看護に励んでいきたいと思います。

特集

食中毒を防ぐ

食中毒発生のニュースが気になる時期になってきました。例年食中毒の発生しやすい時期は夏期(～初秋)と冬期で、冬期の食中毒がノロウイルスなどウイルス性の食中毒が多いのに対して、夏期の食中毒は細菌性の食中毒が多いのが特徴です。

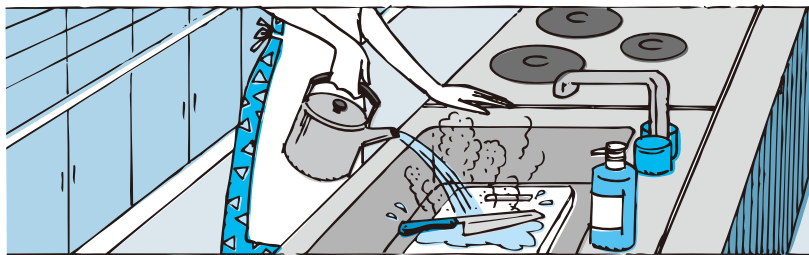
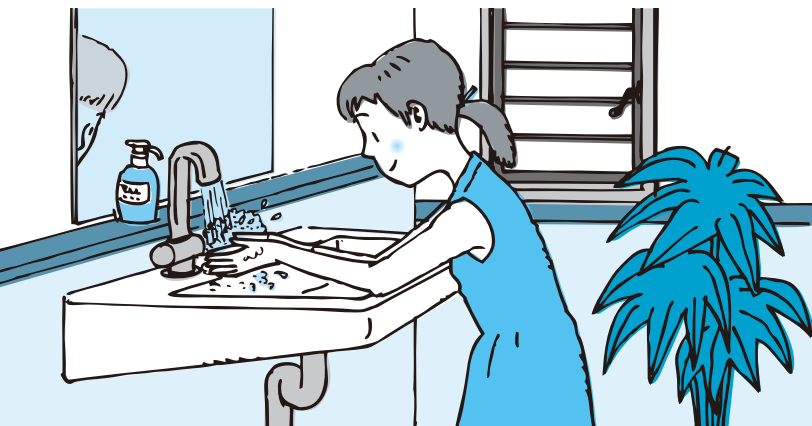


① 食中毒はなぜ起こるの？

食中毒の原因となる細菌には、①細菌の毒素により中毒症状をおこす毒素型の細菌、②細菌が腸内で増殖して感染症状をおこす感染型の細菌に大別できます。

毒素型の食中毒の代表は、ブドウ球菌による食中毒です。手指の傷などに付いた菌が食品中で増殖し、その毒素を含む食品を食べると短時間に嘔吐・下痢・腹痛などの症状を起こします。毒素は熱で壊れにくく加熱しても食中毒は防げません。予防には清潔な手指で調理することが重要です。

感染型の食中毒の代表は、サルモネラ菌とカンピロバクター(カンピロバクター)菌による食中毒です。菌の付いた鶏肉などの肉類や卵を加熱不十分で食べると、腸内で菌が増殖して腸粘膜を傷め、血液混じりの下痢・発熱・腹痛などの症状を起こします。肉類は、良く火を通すことと、包丁やまな板など調理器具の洗浄と熱湯やアルコールでの消毒が大切です。



② 腸炎ビブリオ菌と病原性大腸菌(O-157など)

食中毒の集団発生でニュースに登場する、腸炎ビブリオ菌と病原性大腸菌(O-157など)は、毒素型と感染型の両方の性質を持っており、毒素を作りながら腸内で菌が増殖して、血液混じりの下痢・発熱・腹痛などの症状を起こします。

腸炎ビブリオ菌による食中毒は、海水温が上昇する夏場の魚介類が原因となり、冷蔵管理の不十分な刺身などを食べることで感染します。予防には魚介類を低温に保つこと、できるだけ加熱して食べることが大切です。

病原性大腸菌は、菌に汚染された生肉を食べることで感染し、毒素が腸粘膜にとどまらず全身の血管と細胞を傷め、内臓の機能不全を生じて死に至る危険な食中毒です。生肉は食べないこと、肉の調理には十分に加熱することが重要です。

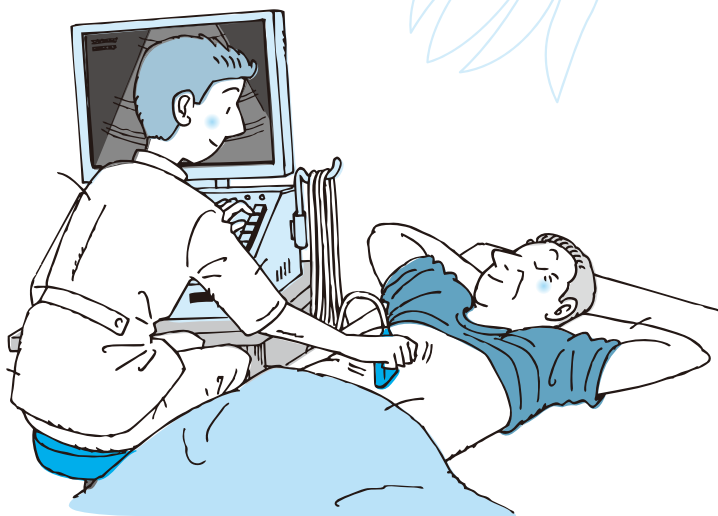
細菌は低温であるほど増殖が遅いので冷蔵が大切ですが、夏には冷蔵庫内の温度が上昇しがちで過信は禁物です。手指や調理器具の清潔に注意して、食品はなるべく加熱調理し、調理後もまめに再加熱するようにしましょう。

エコー検査 Q&A

エコー検査とは

手持ちの機器から人の耳には聞こえない「超音波」という音を出し、体内に送ります。その音波が肝臓や腎臓など対象となる様々な臓器で反射して機械に戻り、画像として表示されます。

これにより体内の臓器の状態を知ることができ、腫瘍や結石、異物などの存在も分かります。



腹部エコーQ&A



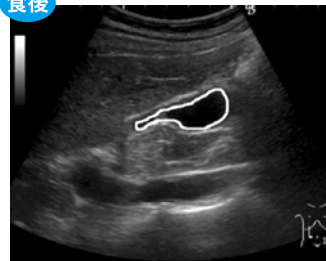
Q なぜ検査前の食事はダメなの？

A 胆のうは飲食をすると胆汁が分泌され、収縮し、内部が狭くなって観察が困難になってしまいます。空腹時には胆汁が充満して膨らんでいるので、観察しやすいのです。

食前



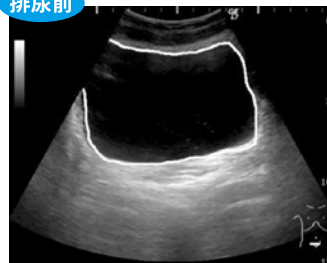
食後



Q なぜおしっこをためておくの？

A 尿がたまることにより、膀胱内部や、背面にある臓器(子宮や前立腺、直腸など)まで音波が届き、観察がしやすくなります。

排尿前



排尿後



Recipe

免疫力アップ!

「にんじんジュース」



1人分
約100
kcal

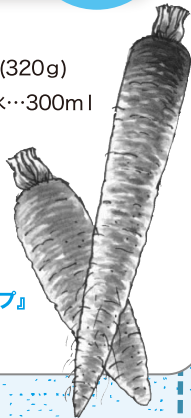
{ 材料 2人分 }

- にんじん…1/2本(100g) ■ りんご…1個(320g)
- しょうが汁…少々 ■ レモン汁…少々 ■ 水…300ml

{ 作り方 }

- ① 冷えたりんごのにんじんを一口大に切る。
- ② にんじん、りんご、しょうが汁、レモン汁、水を入れてミキサーにかける。

★生姜が『冷えとり』、にんじんに『免疫力アップ』
といった効果が期待できます。



「消化器外科」



担当

部長 鈴木 一史 すずき かずふみ

出身地/愛知県

出身校/浜松医科大学(1990年卒)

消化器外科は、主に上部消化管(食道、胃)外科を担当しています。

胃癌・食道癌ともに治療ガイドラインが作成されており、当科ではこれに沿った形での治療を原則とし、個々の患者さんの進行度に応じた治療を心がけています。

早期胃癌に対しては、消化器内科において内視鏡下切除が導入されており、年々症例数が増えてきています。当科では、この適応からはずれる早期胃癌の患者さんに対して、キズを小さくする腹腔鏡補助下胃切除や機能温存を考えた神経温存手術などを行っています。一方、進行胃癌に対しては、できる限りの切除を目指し、必要に応じて周囲臓器の合併切除などの拡大切除や拡大郭清も行っています。胃癌手術に関してはクリニカルパスが導入されており、術後の在院日数は10日前後となっています。

残念ながら切除が難しい場合や再発してしまった場合は、消化器内科、化学療法科、腫瘍放射線科および緩和医療科と連携しながら治療を行うこととなります。治すことが難しく、限られた時間の中でどう治療するかとともに、どのように過ごしたいかも重要であり、患者さんやご家族とよく相談しながら治療を行っています。